

平成26年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会

会 議 録

日時：平成27年1月26日（月）
午後14時30分～16時00分

会場：金沢市西部環境エコプラザセンター
環境学習室

所管：金沢市環境局環境政策課

平成 26 年度第 2 回金沢市廃棄物総合対策審議会 議事録

■日 時 平成 27 年 1 月 26 日（月） 14:30～16:00

■場 所 金沢市西部環境エネルギーセンター「環境学習室」

■出席者 別紙のとおり

■内 容 以下のとおり

環 境 局 長 委員の皆様におかれましてはご多忙中のところ、ご出席を賜り感謝申し上げます。また、日頃より本市の環境行政にご指導、ご協力いただき重ねて御礼申し上げます。

今回の議題のごみ処理基本計画については、昨年末に第 1 回の審議を行い、そこで委員の皆様から頂いた意見に基づき再検討を行った。また 21 日には、市議会の経済環境常任委員会で、計画案の骨子について報告した。この計画は、循環型社会の形成に向けて、ごみの減量化・資源化を推進するとともに、適正処理を行って、市民の快適で潤いのある生活環境を守っていくために、大変重要な計画である。本日は計画の修正案について、皆様にご確認を頂くとともに、改めて計画全般について、さらに良いものにし、実行性を高めるために、様々な視点からのご意見を頂きたい。限られた時間ではあるが、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

事 務 局 ・ 欠席委員の報告
・ 出席委員数 13 名であり定足数を満たしていることを報告

会 長 本日の議事は審議事項が 1 件。審議は公開で進めたいがよろしいか。

(異議なし)

特に、異議がないようであれば、このまま審議を始める。皆様には忌憚のない意見をお願いします。

それでは、事務局から、「(1) ごみ処理基本計画案(案)について」の説明をお願いします。

環境政策課長 資料1～4について説明

会 長 ただ今の説明を受け、ご意見、ご質問はないか。

委 員 説明の中で、基本方針があり、全てが施策となっている。第4期の計画では、施策は施策だが、検討事項もある。それから見ると、家庭ごみの有料化なども「検討する」ではなく「実施する・導入する」ではないのか。

環境政策課長 検討事項と施策は分けていない。有料化に限らず、施設整備のことや、施策11や12など、施策の中で検討するとしたものがいくつかある。検討することが施策であるという位置づけである。

委 員 前は検討となっているものが施策になっているので、取り方によってはこの期間の中で検討し、実施するという意味に取れる。例えば家庭ごみの有料化は第4期でも検討になっていた。第5期では検討も終わり、いろんな意見を聞いて多少修正し、実施するのかという取り方をしていた。これを公表すると、全て実施するものと誤解されるのでは。

環 境 局 長 有料化の部分の表現については、今後しっかりと検討しなければならない。第4期で検討事項としたのは、調査を行うことがメインだったため。調査の結果、県内でも19市町のうち、金沢市、白山市、野々市市、小松市を除く15市町が実施しており、全国的に見ても6割以上の自治体が行っている中で、いろいろなところで「そろそろ金沢も導入を考えるべきでは」という意見を頂く。逆に金沢が導入していない努力を評価する話もある。全国的な状況からはもう遅いかなというところはあるが、色々な意見があるので、今回は調査結果を踏まえ、導入すべきかどうか、導入するならいつ頃からやるのか、そういうことも含め、市民の皆さんの意見を聞いて検討していきたいという趣旨で書いている。第4期に比べると前へ進めたいという思いはある。今回の計画でこの表現をどうするかについては、パブリックコメント等を聞き、その結果を踏まえこの審議会でも諮り決定したい。

委 員 資料4・P19のコラムについて、スーパーで自主的に資源化ごみの回収を行っているが、明らかに少しずつ増えている。特にダンボール、ペットボトルなど、家庭内でかさばるものについて、持ってくる人が増えている。資源回収率が低いとあったが、それらを含めると増えていると思う。

環境局長 ここで資源化率に算定されているのは、市が関与した量を算定するという基準があり、スーパーなどに持って行った分は市が関与していないので、含めていない。市がステーション回収している缶・ペットボトル・びんなどは軒並み減少している。おそらくその分がスーパー等へ持っていかれて、減少していると思われる。コラムの趣旨は、そういう市が関与しないスーパーの回収や古紙回収を含めると、これだけ資源化率は上がるというもの。

委員 ということは、スーパーに持っていくより市を通して捨てた方が、資源化率が上がるということか。ごみの量は変わらないが、持っていく場所により資源化率が変わるということか。

環境局長 国の資源化率の基準で計算すると、市の関与量ということで低い数字になってしまう。今は協働で資源化を進めていこうと考えている。そういう意味では、スーパー等の受け入れる量も含めて資源化率を算定し、金沢市は協働でこのように進めているとアピールしていきたい。

委員 計画の中で資源化率を上げていこうとなっているが、例えばスーパーに持っていつている分も町会で集めて、市の施設に持っていくという方法でもいいのか。

リサイクル推進課長 資源化を商売にしている方々もいるので、それを邪魔するようなことは考えていない。

委員 この計画において、資源化率を上げるために、我々はどうしたら良いのか。地球全体で資源化が出来れば一番いいことである。

リサイクル推進課長 新たな施策として、生ごみと紙の資源化策を考えている。生ごみは、家庭ではダンボールコンポストや電気式生ごみ処理機の普及により減量化を図っていく。紙については、我々はこれまで集団回収を奨励してきた。登録団体数はそれほど変わっていないが、回数が減ってきているため、市の回収量が減っている。しかし各家庭では分別されていて、集団回収を待たず民間へ持っていく方が多い。また燃やすごみの日に、ごみステーションに置く方も多い。そこで、ごみステーションで紙ごみを資源回収する対応をとりたい。

委員 家庭に置き場がないので、ごみと一緒に出す人が多い。それを便利なので、スーパーなどに持っていく人も多い。それでは資源化率が上がらないという風にとられると我々としてもまずいので、その分を市

を通してやれば資源化率が上がるのかということ。

環境局長 この計画ですぐ出来るかは分からないが、将来的にはこういう形で算定したらこういう資源化率になるというものも、まとめて発表したい。その一歩前進としてコラムにまとめた。こういう形で民間の方と協力すると、こんな風に上がりますというものも、金沢市としての資源化率としてカウントしていきたい。

会 長 P19 の表 3.4-2 の平成 25 年の資源化率 11.7%は、下のコラムの資源化率の分子・分母から古紙回収業者回収量を抜いた値となっているのか。

リサイクル推進課長 そうになっている。コラムの古紙回収業者回収量は我々が把握できたものだけとなっている。はっきりとは言えないが、実質的にはもっとある可能性が高い。

委 員 資源化率がコラムの数字になるようにした場合、総排出量が一気に上がるという問題がある。総排出量は 10 年前から見ると、平成 25 年までで約 2 万 3 千トン減っている。今から 10 年先までで 2 万 5 千トン減量する計画を出しているが、かなり厳しい減量策だと思う。まず一つは、ごみになるものを家庭に入れないこと。入ったものは全部出る。出たものは極力分別して、廃棄物から有価物に回してもらうのが筋だと思う。もっと施策の中で、ごみ袋の有料化などを早めに強力に進めて、資源なら無料だろうから、そちらを推進したほうが分別が進むのでは。

リサイクル推進課長 第 4 期計画で実施した調査の結果、有料化により平均で 15%ほどのごみの減量効果が見られた。

委 員 それは大きいと思う。総量も減るし、資源を極力分別しようという気持ちも働く。燃やしたり埋め立てるごみも減る。ただ、有料化するには課題を詰めなくてはいけない。不法投棄が増えることや、生活困窮者に対してどうするかなど。

会 長 石川県の有料化した他の市町での実績はどうか。

リサイクル推進課長 やはり 10%~15%の減量となっている。また、ほとんどの地域では可燃・不燃の両方を有料化している。一部の自治体では資源ごみも有料化している。

委員 先週の新聞に1リットル1円という記事が載っていて、市民の皆さんが興味を持たれたと思う。普通ごみに出すのは45リットルの袋なので45円になるが、排出量が減ると45リットルの袋がいらなくなるのではないか。また資源について、町会などである一斉美化では燃やすごみと燃やさないごみの2種類の袋があるが、あのような大きくなるのではと想像しているが、袋の大きさはどのようなになるのか。

リサイクル推進課長 そこまでの検討は行っていないが、他都市の状況を見ると、何種類かの大きさを定めている。金額は1リットル1円のところが多い。一番高いところは、1リットル2円、安いところは0.6円であった。これを参考に検討していかなくてはならないと思う。

委員 校下婦人会でも有料化の話はちらほら出てきている。そこで、家庭から出る生ごみを減量化しようということで、ダンボールコンポストを全校下に普及しようと啓発に努めてきた。生ごみを減量化し、家庭菜園などで堆肥を使ったり、JAに持っていけば500円のチケットがもらえて、野菜に交換も出来るので、取り組みを進めている。平成24年に西部の新工場が建って、施設が立派になったら、今までプラスチックのものを、少し汚れたものも米のとぎ汁や水でゆすいで出していたが、少々汚れていても大丈夫だとあいまいになったら、少し洗えばよいものも捨ててしまうようになり、資源ごみが減り燃やすごみが増えた。革靴や、長靴などのゴム製品など、あらゆるものがごみステーションに出るようになった。婦人会では、今まで一生懸命分別していたのが、ちょっと抵抗があると言いながら、楽でいいという話もある。燃やすごみが増えて、資源化が少ないという数字を見ると、ある程度きれいなものは資源にするよう、厳しくならないものか。楽になりすぎて、ごみの減量化とは逆方向でないかとも思う。

リサイクル推進課長 以前はチューブの中もきれいにしておいて出してくれといていたが、それは燃やすごみでよい。その他のトレーや容器包装プラスチックは、軽く洗って出してくださいと説明している。しかし、中にはそれを楽に取られる方がいて、汚れたものは全て燃やしてよいと思い、それが広がっている。今後の説明会で、その辺をしっかりと説明したい。

委員 リサイクルプラザについて、市内のリサイクル業の店が結構盛況である。またインターネットでも、不用品の取引が盛んである。私も不用品がある方にリサイクルプラザをご案内しているが、次の利用者とのマッチングが難しい。再利用する方が少ないので、中間にいる方も消極的なのではないか。これも民間と協力しながら販路を増やすのも一つの手段では。

リサイクル推進課長 現在、不用品を出される方と、欲しい方との仲立ちを行っているが、最近では民間のお店が多くなったせいか、少し変わったものを求めてくる。一般的によく再利用されているものを欲しいという人は少なくなってきた。戸室リサイクルプラザにて自転車・家具などの再生品を販売しているが、非常に人気があり、利用している市民も多い。しかしあまり広めると、商売でやっている方の邪魔にもなるので、そこが少し難しいところである。そういう業者とも話をしながら、どうするのが一番よいのか考えて進めていきたい。

委員 先ほど資源化率を上げるとごみの総排出量が増えるという話があったが、資源化できないごみの排出量の、一人当たりの量の比較のようなものがあればいいと思うので、検討してもらえないか。

会長 検討をお願いしたい。他に何か意見は。

委員 資料2基本方針2の施策⑥事業所との役割分担による資源回収ルート確保について、燃やすごみに資源である紙ごみが大量に出ており、それをステーションで回収することは検討しているのか。そこに回収業者と提携して、回収するという事なのか。

リサイクル推進課長 まさにそれを検討している。紙ごみに関しては、現在ステーションに出されている量を、今年度4校下で調査をした。その結果、燃やすごみの横に出されている新聞紙やダンボールが、燃やすごみの5%に相当する量だった。なおかつ、袋の中にも再生できるような紙ごみが多くみられた。今後これらを分別回収できるような対策をとっていきたい。ただ紙を分別すると、市が保有している収集車両の数では回収が困難である。そこで、古紙回収業者と協力しながら進められないか検討している。

委員 ごみの出し方のパンフレットに、紙を分けて出せば回収すると早くうたっていたらいい。

リサイクル推進課長 回収方法が問題。業者も余裕のある車両を保有しているわけではない。そのあたりを今後話し合いをしていく。また、燃やすごみの中の紙も分別したいということで、各家庭に新聞社が配っているような紙袋を配布するか、用意してもらい、そこに分別してもらったものを決まった日に出してもらおうことで、何とかできないかとも思っている。計画で言うと、基本方針1の施策②生ごみ・紙ごみの減量化の促進にあたる。

- 会 長 それを一斉にやるのは難しいのでは。
- リサイクル推進課長 先にモデル的な形で実施し、どの位のものが回収できるのかを把握してからでないかと、全体に取り掛かるのは難しい。
- 会 長 そういう調査は今まで行っていたのか。
- リサイクル推進課長 今年度、古紙業者と協力して行った。こちらがあまり強力で推進すると、古紙業者の商売にも関わる。市は集団回収を第一に推進する姿勢は変わらない。そこでどうしても出せないものをごみステーションで分別回収したい。
- 委 員 以前に震災がれきを受け入れたが、河川や地下水は年数が経ってから影響が出てくる。その後のモニタリング数値等の現状はどうか。
- 環境政策課長 埋立場周辺の放射線量を月1回測定している。またモニタリングポストが2箇所あり、周辺の町会の方に目視で確認して頂いている。埋立場浸出液と金腐川への放流水及び埋立場地下水の放射能濃度についても、月1回測定している。今のところ検出されたことはなく、問題はない。
- 委 員 計画案 P49 の資源化率について、金沢市が 12.9%で、倉敷市が 51.1%となっているが、この数字の違いはどのように分析しているか。
- 環 境 局 長 細かいデータはないが、焼却灰をセメント工場等でリサイクルしているということがあったり、金沢市で取り組んでいないことで資源化を進めているのではないか。
- 委 員 計画の中でも、焼却灰のセメント化はコストの問題で進まないということがあったが、倉敷市で出来て金沢市で出来ないのはなぜか。
- 環 境 局 長 資源化する工場との距離などの、ごみについては地域性もあり、過去からの経緯もある。そういう中で、資源化のシステムが確立されているところとの違いがある。また算定の仕方も違いがあると思うので、次回の審議会までに差がある理由を調べたい。
- 委 員 同表の一人当たりの処理経費にも大きな違いが出ているので、関連性があれば調べて欲しい。

環 境 局 長 埋立処分経費など大きく違う。地元で処分できるところと、他の地域に委託しているところでは処理単価も違うので、他都市との比較の中で極端に差があるものについては次回資料を示したい。

委 員 施策②及び⑥で古紙回収業者との連携を考えているとのことだったが、他にも何か考えていることはあるか。

リサイクル推進課長 施策⑥では、拠点回収場所を増やしたいと考えている。現在スーパー7店舗と共同で拠点回収を行っている。これをスーパーに限らず、人が集まりやすく駐車場が大きいところで協力してくれるところがないか、いろいろと探しているが、ごみを受け入れるということはなかなか難しいようだ。4月から旧西部クリーンセンター跡地に資源搬入ステーションができる。これまでの拠点回収ステーションは土日に限定してきたが、こちらでは平日・夜間も受け入れて、市民サービスの拡充に努めたい。ただ、月・火・木・金の平日の午前中は、燃やすごみの収集車が集中して入ってくるので、一般車両との事故防止のため、その時間の受け入れは行わない方向で考えている。受け入れる資源ごみは、市が取り扱っている全てと考えている。こういった回収拠点を、市有施設に限らず、民間と共同で増やしていきたい。

委 員 計画案P77の見込みで、拠点回収と書いてあるのは資源搬入ステーションで集めた分ということか。将来もあまり変化がないように見えるが。

リサイクル推進課長 そこはなるべく増やしていきたい。

委 員 場所の問題だけというのであれば、各町会に簡易の物置を作るなどして、月1回集めるというような方法が取れるのでは。そちらのほうが先だと思う。町会のごみは町会が責任を持って資源にするということであれば、ごみステーションの横に小さな物置を置いたり、田舎であれば空いた家に置くなど出来るのではないかと思う。そういうことをしていかなないと資源化が進まない。業者やいろいろなところに遠慮しながら資源化しようといっても、金沢市の資源化にならない。市全体で進めるのであれば、地域の人にも、お金の負担は無理でも場所の提供くらい頼んでもよいのでは。

リサイクル推進課長 検討したいと思う。その件については別に話をさせて欲しい。それで出来るようであれば是非推奨したい。

委 員 こちらから投げかけなければ動かない。

- 委員 小松は小屋が作ってあって、そこに集めている。
- 委員 紙の回収について、ごみ置き場に紙を出すと、雨に濡れたり、火をつけられるかもといった懸念がある。一部の都市では、町会で回収ボックスを設置する場合、補助金が出ている。
- リサイクル推進課長 金沢市の場合、そういった補助金はないが、資源ごみに対しキロ 3 円の奨励金が出ている。それで管理をして頂きたいというのが金沢市の方針である。
- 委員 置き場もさることながら、ペットボトルでやっているように、紙でも回収日も決めてもらって出来ないか。特殊な車を買わなくても出来るような気がする。
- リサイクル推進課長 古紙業者も効率よく集められるなら、協力すると思う。我々もそれで収入を得るつもりもなく、回収した紙は提供していいと考えている。出来れば共同で行っていききたい。
- 会長 それは金沢市の資源化率に含まれるのか。
- リサイクル推進課長 市が直接回収しなくても、事業に関与していれば資源化率に含まれる。
- 委員 ダンボールには混ぜて良いものと良くないものがあるのでは。
- リサイクル推進課長 紙にも種類があり、資源化できないものもあるが、一般の家庭で使われているものは概ね大丈夫かと思う。
- 委員 家庭で仕分けするからには、わかりやすい分類を考えなくてはいけない。私はそれより、各町会で 2, 3 ヶ月に 1 度回収する日を決めて行うことが良いと思う。また学校の集団回収が減るという話にもなるが。
- 委員 環境出前講座について、もっと半強制的に実施したほうがよいのでは。
- リサイクル推進課長 出前講座については、これまで待ちの姿勢だったが、今後こちらから入っていくことにしたい。小学 4 年生が環境関係の学習を行っている。その中で、できればダンボールコンポストなども取り上げてもらえる学校がないかと思っている。出前講座の後、給食残飯などを堆肥

化する実践学習へと結び付けていきたい。

会 長 本日の議事は以上であるが、議事に関する事またはそれ以外の事
とでご意見ご質問等ないか。

他に意見がないようであれば、本日の議事を以上とする。

事 務 局 長時間にわたるご審議に感謝申し上げます。
これで、平成26年度第2回廃棄物総合対策審議会を終了する。

(別 紙)

平成26年度第2回廃棄物総合対策審議会出席者 (順不同、敬称略)

会長 関 平和 (金沢大学理工研究学域教授)
出村 昌史 (金沢大学医薬保健研究域医学系助教)
河内 久美子 (金沢学院短期大学副学長教授)
池田 啓一 (北陸大学薬学部講師)
山本 建夫 (金沢市町会連合会副会長)
能木場 由紀子 (金沢市校下婦人会連絡協議会会長)
忠村 涼 («金沢のごみを考える» 学生連絡会)
松川 治彦 (石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事)
福島 幸子 (金沢市一般廃棄物事業協同組合理事長)
元林 秀夫 (金沢農業振興協議会会長)
蔵本 和夫 (石川県環境部廃棄物対策課長、
石川県環境部長 浜田孝委員の代理出席)
西元 修 (公募委員)
山家 善喜 (公募委員)

※欠席者

林 健治 (金沢商工会議所常務理事)

(事務局出席者)

宮本 伸一 (金沢市環境局長)
佐久間 悟 (金沢市環境局担当部長兼環境政策課長)
蚊戸 進 (金沢市環境局担当部長兼リサイクル推進課長)
坂井 恒 (金沢市環境局施設管理課長)
川端 淑愛 (金沢市環境局環境指導課長補佐)
中村 信治 (金沢市環境局環境政策課担当課長)
松岡 茂 (金沢市環境局リサイクル推進課ごみ減量化推進室長)
木谷 哲 (金沢市環境局環境政策課課長補佐)
宮田 久美子 (金沢市環境局環境政策課企画庶務グループ長)
加藤 祐介 (金沢市環境局環境政策課主査)